

本リリースは富士ソフト株式会社と xID 株式会社の共同リリースです。
重複して配信される場合がありますことをご了承ください。



2020年9月1日

富士ソフト株式会社

xID 株式会社

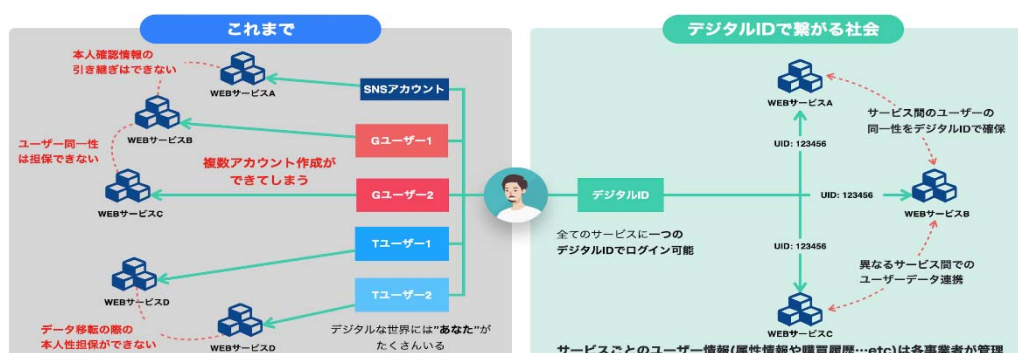
富士ソフトと xID、データ連携基盤「UXP」 と次世代デジタル ID 「xID」の共同提供の検討における基本合意書を締結

富士ソフト株式会社と xID 株式会社は、富士ソフトのセキュアなデータ連携基盤「UXP (Unified eXchange Platform)」と、xID のマイナンバーカードを活用した次世代デジタル ID アプリ「xID (クロス ID)」を組み合わせたデータ活用・データ連携支援の共同提供の検討において基本合意書を締結したことをお知らせいたします。

世の中には様々な情報があふれていながら、まだ十分には活用できていません。デジタルデバイスのない社会、つまり全国どこにいても、誰でも、安全で簡単、そして正確に、様々な情報がつながったサービスの提供を受けられる世界が求められています。

しかしながら、情報管理、特に個人情報の取り扱いには十分なセキュリティの確保が必要で、本人の同意や利用目的を明確にした活用や運用管理が必要です。また、個人が行政や民間の新しいサービスを利用するたびに新しいアカウントを作成する必要があり、場合によっては同じ個人でありながらも同一サービス内に複数の ID が存在する場合があります。名前や住所、メールアドレスなどの情報だけ管理された ID では、個人の同一性を担保することは困難だからです。さらに様々なサービスを利用するにはサービス毎の ID が必要となりますが、複数のサービス間での ID 連携やデータ連携が実現できているとは言えない状況です。

この度の両社の合意によって、共通 ID を活用し同一の人物であることを証明することができる xID を、データ連携基盤である UXP と連携できるよう推進して参ります。各種行政・民間サービスにおけるセキュアなデータ連携を実現し、デジタル化による業務の効率化と個人の多様な行動パターンに即したきめ細かいサービスの提供を実現し、デジタル社会の利便性向上とスーパースィティの実現を目指して参ります。



UXP (Unified eXchange Platform)

エストニア政府でも採用されている X-Road を商用化した製品である UXP は、暗号化技術を活用することで、複数のデータベース間のデータ連携を安全に共有することを可能としています。元々統合的なデータベースを作成するリソースが無かったエストニアだからこそ生まれた分散型の同システムにより、複数のシステムやデータベース、そのデータレイアウトを変更することなく連携・利活用することが可能です。

xID (クロス ID)

マイナンバーカードと連携することで、より手軽にログイン、電子署名、そして本人確認ができるデジタル ID アプリです。初回登録時にマイナンバーカードに格納されている基本 4 情報（氏名、住所、性別、生年月日）をスマートフォンの NFC 経由で読み取り、マイナンバーカードと xID を紐付けます。その後、連携するオンラインサービスのログイン用の暗証番号と電子署名用の暗証番号を設定し、利用時に認証・電子署名することで本人確認を完結し、さまざまなオンラインサービスの安全な利用を実現することが可能です。

また、xID はマイナンバーカードを用いた公的個人認証によって、ユーザー 1 人につき、重複のないユニークな ID が発行可能です。2020 年 8 月時点で日本国内においてデジタル世界でユーザーの同一性・本人性を担保できる唯一のデジタル ID アプリとなっています。

富士ソフト株式会社 <https://www.fsi.co.jp/>

本社：神奈川県横浜市

代表取締役 社長執行役員 坂下智保

1970 年創立の独立系 IT ソリューションベンダーです。組み込み系ソフトウェアの開発や、業務系システム開発の 2 本柱を主軸に、最先端の技術ノウハウ、トータルなインテグレーション力、ハードウェアとソフトウェア技術を組み合わせたプロダクト開発力を強みとする企業です。

DX 支援にも注力しており、2019 年 4 月よりデータ連携基盤「UXP」の日本導入支援に取り組んでいます。

xID 株式会社 <https://xid.inc/>

本社：東京都千代田区

CEO 日下光

xID 株式会社は「信用コストの低いデジタル社会を実現する」をミッションとして掲げ、マイナンバーカードを活用したデジタル ID ソリューションを中心に、次世代の事業モデルをパートナーと共に創出する GovTech 企業です。デジタル ID 先進国のエストニアで培った知見・経験をもとに、情報のフェアな透明性を担保し、データ・個人・企業・政府の信頼性が高い社会を、デジタル ID を通して創出していきます。

以上

※記載されている会社名および商品名は、各社の登録商標または商標です。

この件に関するお問い合わせ

富士ソフト株式会社
コーポレートコミュニケーション部
広報窓口
〒101-0022
東京都千代田区神田練堀町 3
TEL：050-3000-2735
FAX：03-5209-6085
E-MAIL：mkoho@fsi.co.jp

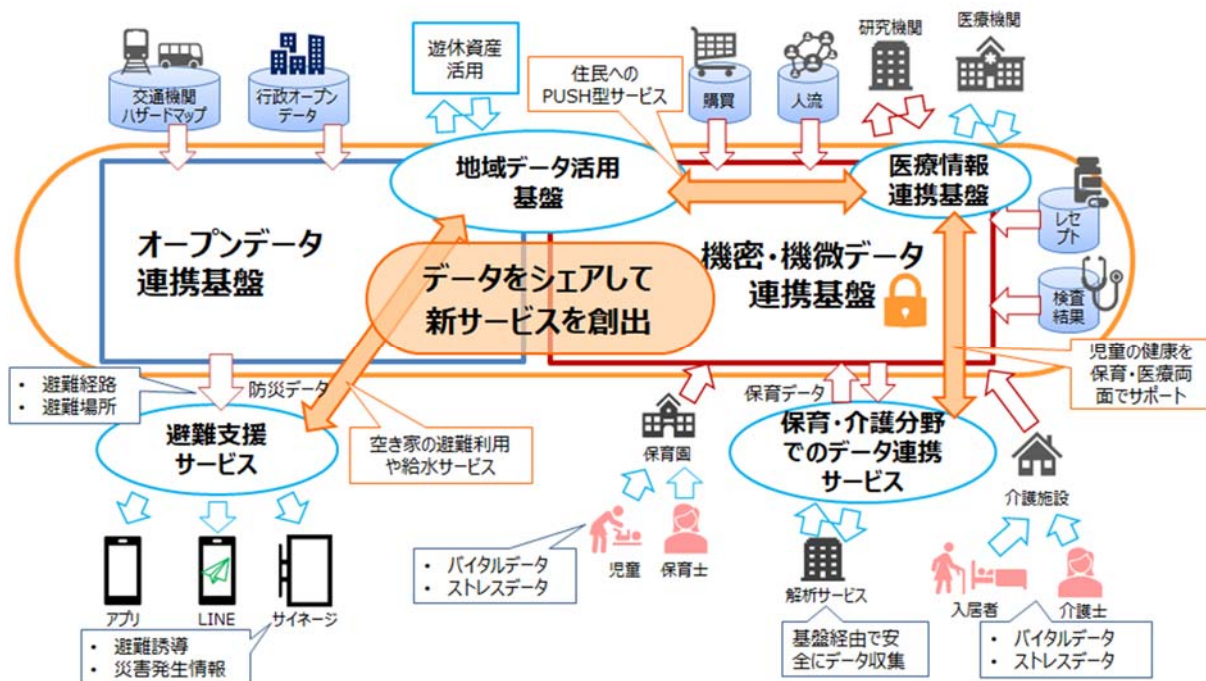
xID 株式会社
お問い合わせ窓口
〒100-0014
東京都千代田区永田町 2-14-3
東急不動産赤坂ビル 6 階
TEL：03-6550-8987
E-MAIL：info@xid.inc

<参考>

データ連携基盤「UXP ソリューション」(富士ソフト)

<https://www.fsi.co.jp/uxp/>

デジタルトランスフォーメーションを実現し新たなサービスを創造する情報プラットフォーム
UXP 導入をトータルサポート



●UXP (Unified eXchange Platform)

<https://cyber.ee/products/secure-data-exchange/>

世界的に有名なエストニアの電子政府システムの連携基盤「X-Road」をエストニア以外の政府や組織へ提供するために発展・開発された、暗号化と相互認証の機能を持つピアツーピアのデータ交換を可能とする技術。分散型のアーキテクチャに基づいているためコスト効率が高く、システムの自立性を維持したまま、データの完全性を損なうことなくセキュアなデータ交換が可能。この技術により、行政手続きなどのワンストップ・ワンスオンリーの実現に向けたプラットフォーム・としての優位性が高い。

特長

・セキュリティ

複数のセキュリティでデータの完全性と安全性を保証

署名とタイムスタンプで、すべての照会履歴を監視可能

・連携が容易

既存システム・データベースを UXP に接続できる


データ連携用に新たなシステムの開発は不要

・情報の公開権限を簡単にコントロール

個人毎に情報の公開権限を簡易にコントロールすることが可能




エンドユーザー向け xIDアプリ




本人確認(eKYC)・個人情報入力の面倒を解決

1度だけマイナンバーカードをNFC読み取りして公的個人認証を実施すれば、**名前、性別、生年月日や住所**など毎回の面倒な入力を省略し、これ一つで改正犯収法等の法令に準じたeKYCを実現。身分証撮影も不要です。



パスワード不要の多要素認証によるログインでUX改善


ID/パスワードなどの既存の認証方式によるログインを**デジタルIDによる多要素認証**へ。ユーザー負担を低減し、本人性を担保した使いやすく安全な**パスワードレスログイン**を実現。フィッシング詐欺、なりすましやリスト型攻撃等のセキュリティリスクを低減します。



電子署名でハンコ(捺印)を置き換えてペーパーレスに


電子契約やオンラインバンク・行政サービスなど、オンライン取引において本当に本人が承認したかの証明が容易になり、**改ざん・否認防止**を実現することが可能です。

開発者向けxID API




個人情報確認API

公的個人認証サービスを活用し、基本4情報(名前・性別・生年月日・住所)の正確な情報取得、提供。電子証明書による改正犯罪収益移転防止法オンライン本人確認(eKYC)に。※改正犯罪収益移転防止法(第六条の力)



電子認証API

ユーザーのスマホ端末をマイナンバーカードで認証することでパスワードレスログインのためのセキュアな認証器に。多要素認証でなりすましや、リスト型攻撃対策のセキュリティリスクを低減します。



電子署名API

署名用電子証明書を利用してデータに電子署名を行うことで、データの偽装や、改ざん防止・否認防止することができます。電子署名法に準拠(第二条3項)した当事者の電子署名にご利用いただけます。

xID (クロス ID) は、マイナンバーカードと連携することで、より手軽にログイン、電子署名、そして本人確認ができるデジタル ID アプリです。

スマートフォンにアプリをインストール後、初回登録時にマイナンバーカードをカードリーダーもしくは NFC で読み込むと、マイナンバーカードと xID アカウントを紐付けることができます。その後、ログイン時に入力要求される暗証番号 (PIN1 : 4桁の数字) と、電子署名時に要求される暗証番号 (PIN2 : 6桁の数字) を設定。それ以降は、連携するオンラインサービスでログインや署名を行う際に xID アプリに通知が送られ、スマートフォン上で PIN コードを入力することで安全に認証・電子署名を完結させることができます。また、オプションとして、スマートフォンに実装されている生体認証を利用することも可能です。